

親不知から祖母谷へ

記録 鈴木輝明

期間 : 2019年8月7日(水曜日)夜～8月15日(木曜日)
山域 : 飛騨山脈 (拇海新道)
メンバー : 田中利美(L)、鈴木輝明(記録)



拇海新道、黒岩平の花畑

行動概要

8月7日(水) 晴れ

バスタ新宿 23:00発 (直江津行き夜行バス)

8月8日(木) 晴れ

直江津駅前 05:50着

直江津駅 06:47 ⇒ 親不知駅 07:42 (日本海ひすいライン)

親不知駅 07:50 ⇒ 観光ホテル 07:58 (糸魚川タクシー)

am 8:30 → 拇海新道登山口 8:40 → 入道山 10:58 →

二本松峠 11:25 → 尻高山(677m)13:40 → 坂田峠(610m)

14:30 (幕)

8月9日(金) 曇り時々晴れ

起床 03:50 坂田峠 05:15 → シキ割 06:50 → 白鳥山

(1287m)09:40 → 下駒ヶ岳 12:35 → 菊石山(1210m)

13:55 → 黄蓮の水場 14:30 (幕)

8月10日(土)晴れ

起床 03:45 黄蓮の水場 05:00 → 黄蓮山 05:50 → 榑海山
荘 07:30 犬が岳(1593m) 08:00 → 北股の水場 8:50
→ さわがに山(1612m) 10:55 → 黒岩山(1670m) 13:55
→ 中俣新道分岐点 14:10 (幕)

8月11日(日)晴れ時々曇り

起床 04:45 中俣新道分岐点 05:30 → 黒岩平 06:40 → あ
やめ平 08:57 → 長榑山 10:02 → 吹上のコル 11:30 →
朝日岳(2418m) 12:45 → 朝日小屋 13:50 (幕)

8月12日(月)晴れ時々曇り一時小雨

起床 04:00 朝日小屋 05:10 → 水平道分岐 06:20 → 雪倉
岳 (2610m) 11:10 → 雪倉避難小屋 11:57 → 三国境
14:35 → 白馬岳(2932m) 16:00 → 頂上宿舎 16:45(幕)

8月12日(火)晴れ

起床 05:30 頂上宿舎幕場 08:00 → 清水岳(2603) 11:40
→ 不帰避難小屋 14:20

8月13日(水)晴れ時々曇り

起床 04:00 避難小屋 04:50 → 祖母谷温泉 10:30 (小屋泊)

8月14日(木)

祖母谷温泉 08:20 → 榑平 09:05
榑平駅 09:37 → 宇奈月駅 10:59 (黒部峡谷鉄道)
宇奈月温泉駅 11:39 → 新黒部駅 11:02 (富山地方鉄道)
黒部宇奈月温泉駅 13:32 → 東京 15:52 (北陸新幹線)

行動記録

榑海新道の存在を知ったのは、45年程前の山溪に発表された、さわがに山岳会の榑海新道開拓の記録である。何時かは歩いてみたいと思いながら、なかなか実現できず、古希を迎える年に、爺さん二人でなんとかカトレースすることができた事は、おおきな喜びである。

親不知の海岸から白馬岳を目指し、百貫下りで祖母谷へ至るまでの記録である。

8月7日(水)

バスタ新宿より夜行バスで直江津へ向かう。

8月8日(木)

早朝、直江津駅前着、商店街のコンビニで朝食と昼食を調達して、親不知駅へ向かう。親不知駅からは、予約しておいたタクシーで、榑海新道登山口へ10分程で到着。



0m スタート地点にて
(下山して来た単独のお姉さんに撮ってもらった)



登山口の標識

ホテル前から急階段を下降して、0mのスタート地点へ。穏やかな海であった。登山口まで急階段を上り返すが、空身であるにもかかわらず、身体が重く、不安になる。トイレで飲料不適の水を補給して、拇海新道へ分け入る。

登山口から3時間弱で、二本松峠に着く。蒸し暑さで汗が噴き出す、振り返ると青い海、唯一の慰めである。小さなアップダウンを繰り返すのみで高度は上がらず。

ここまでの標準コースタイムでは、2時間であるが、我々は、2時間45分要している。標準コースタイムの約1.3倍である。



坂田峠の標識と地藏さん



二本松峠を過ぎると、677mの尻高山、本日の幕営地である坂田峠も近い。

尻高山から50分程で坂田峠に到着。坂田峠は旧北陸街道で、金山の最盛期には、賑わったのであろう。

坂田峠14時30分到着。0mからの行動時間6時間。

舗装された道に天幕を設営して、のんびりしたいと思ったが、アブ、蜂、蚊の襲撃に悩まされる。

夕食のフリーズドライの玉子とじかつ丼が美味い。

虫と暑さの戦いは、早朝まで続いた。お陰で、熊の存在を忘れてしまった。

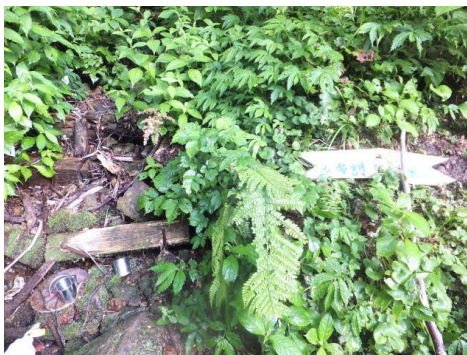


尻高山の地藏さん

8月9日(金曜日)

今日は、シキ割までの急登から始まり、梅海山荘を目指す予定。

坂田峠からは、1時間30分程の急登を木の根を掴み登るとシキ割の水場に到着。ここで、本日の水6リッターを確保。荷は、ずっしり重くなる。



シキ割の水場



白鳥小屋

シキ割から暫く登ると、ゆるやかな斜面が続く山姥平に着く。ここから、目指す、白鳥山を望める。

山姥平からの白鳥山(1286m)

シキ割から3時間程で、白鳥山到着。ここまでは、3年前の夏に到達しているが、今回は山靴の異常も無く順調に行動できている。(3年前の夏にも同じルートで計画したが、鈴木さんの山靴のソールが剥がれて、白鳥山で敗退)

白鳥山は、北アルプス最北の1000m峰であるとの事である。

白鳥小屋からは、目指す犬が岳方面が望め、梅海新道は新潟県と富山県の県境に沿って開拓されている。

白鳥山を通過し、小さなアップダウンを繰り返す中、田中さんが不調を訴える。下痢の

ようである。朝食に問題があったのか？ 白鳥小屋へ戻り休養も考えたが、調子を観ながら前進する事に決定。

下駒ヶ岳を超え、菊石山に着く頃には、行動制限時間の14時近くになっていた。菊石山の名は、ここでアンモナイトの化石が発見された事に由来するとの事。



下駒ヶ岳

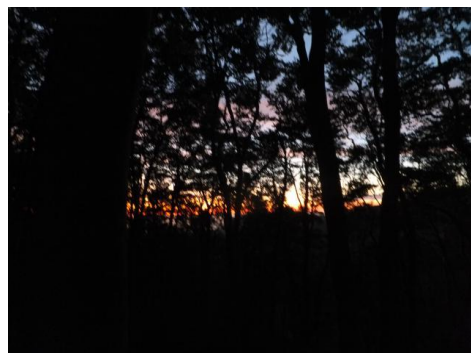


菊石山

菊石山で大休止の後、30分程の下降で黄蓮の水場に到着。黄蓮の水場は、ブナ林の中にあり、水量豊富な沢である。水場の入り口には、天幕が二張程設営するスペースがあり、
拇海山荘までの登行は困難と判断し、ここに設営する事を決めた。



黄蓮の水場の田中



天幕から観えたブナ林の日没

8月10日(金曜日)

今日の計画は、朝日小屋までであるが、到達困難と判断し、黒岩山とした。

朝食はラーメンを避けて、朝から豪華な牛とじ丼を奮発。調子を回復した様子。

5時に水場を出発し、50分程の登りで、黄蓮山を通過、その後、1時間40分で拇海山荘に到着。拇海山荘からは、夏山らしい風景が広がる。



黄蓮山からの犬が岳



梅海山荘



県境稜線



犬が岳

梅海山荘から30分程の登りで、犬が岳(1593m)に着く。
犬が岳からは、東側が切れ落ちた細い稜線が続き、北俣の水場を経由してサワガニ山(1612m)に続く。



さわがに山



北俣の水場案内板も

さわがに山からは、湿地帯が現れ、巨大な水芭蕉が観られる。

黒岩山が見え始めると、右手前方に長拇山へ緩やかに上っている広大な斜面が観えてくる。今までとは全く異なる風景の出現に驚く。

黒岩山通過13時55分、今日の幕営地を探す。黒岩平は幕営禁止の為、黒岩山から15分程下った、中俣新道分岐点の中俣新道に一張出来るスペースを見つけて幕営地とした。



黒岩山



黒岩山直下の中俣新道

8月11日(日曜日)

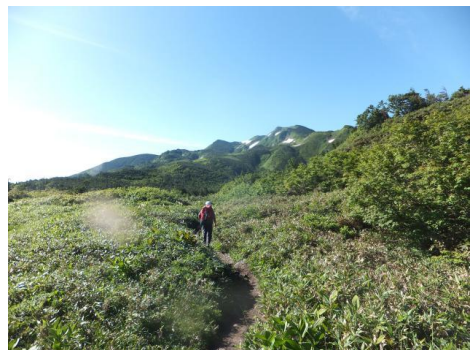
高度が上がった為、虻に苦しめられず、良く眠れた。

今日は、朝日小屋まで。

中俣新道から黒岩平へ入り、木道を交えて良く整備されたほぼ平坦な登山道を進む。池塘や雪田、可憐な高山植物が点在し、冷たい水が流れる別天地である。



黒岩平



長拇山へ

黒岩平を過ぎ、緩やかに登ると、紫色のあやめが咲き乱れるあやめ平、更に、1時間程登ると平坦な長拇山に着く。頂上へは植生保護の為ロープがあり入れない。



長梅山（右のピーク）

長梅山を越えると、吹上のコルまでは、1ピッチ程である。
吹上のコルから1時間30分程で朝日岳に到着。（12:45）



一休み中の田中



吹上のコルを目指す



朝日岳頂上の田中

朝日岳で大休止の後、のんびりと降り、朝日小屋を目指す。途中、オゴジョに出逢えた。 朝日小屋着（13:50）



朝日小屋を目指す



朝日小屋

8月12日（月曜日）

快適な幕営地で、良く眠れた。

今日は、白馬岳頂上小屋までの長丁場ではあるが、気持ちが良い。5時10分に幕営地を出発し、水平道へ入り先ずは、雪倉岳を目指す。途中、赤男山直下の水場で、横須賀山岳協会の高橋友孝会長にばったり会う。単独で大雪溪から入り、親不知まで行くとの事。



水平道を行く田中



高橋会長と

高橋会長と別れ、ガレ場を過ぎ、ここから長く厳しい雪倉岳の登りが続き、雪倉岳に着いたのは11時10分であった。



雪倉岳頂上



白馬岳頂上

雪倉岳頂上で大休止の後、白馬岳を目指す。三国境に着くころには疲労困憊し、15分行動して10分休む状態に陥ってしまった。このころから視界が悪くなり、小雨も降り出すが、直ぐに雨は止んだ。

朝日小屋を出てから、10時間50分後に、白馬岳の頂上を踏む。

視界が悪い中、頂上小屋の幕営地を目指す。疲労の為、意外と遠く感じた。

天幕場は超満員で、やっとの思いで隙間を捜して設営できたが、斜面と石ころだらけ。

8月13日(火曜日)

今日の予定は、不帰岳避難小屋まで。 余裕があるので、皆が出発した後、空地

へ天幕を移動して再入眠。

8時に天幕場を出発し、清水岳を目指す。ほぼ水平な登山道は良く整備されて、高山植物が咲き乱れ、立山連峰を眺めながら歩ける素晴らしいコースである。



朝の天幕場で寛ぐ田中



清水岳を目指す



剣岳遠望



清水岳直下の祖母谷を示す道標

清水岳より祖母谷へ下る道標に従い、直角に曲がり清水尾根に入る。

清水尾根上部は高山植物が咲き乱れ美しい尾根である。

清水尾根に入ってから、人に会うことは無かった。

灌木が現れてから暫く降ると、突然、前方左手に避難小屋が現れた。

避難小屋のすぐ下には、水量豊かな、冷たく美味しい水場がある快適な環境であるが、小屋の周囲に真新しい熊の糞が2か所で確認された。

就寝中に、外でガタガタ音があるので目が覚めたが、熊に重たい戸を開けられる事は出来ないと信じ、再び眠りについた。



清水尾根上部



不帰岳避難小屋

8月14日(水曜日)

今日は、祖母谷へ下山する日である。8月8日(水)の入山から7日目、大きな崩れも無く、何とか行動できた。ここから先が百貫下りの核心部である。

4時50分、避難小屋発。

右手に百貫山が見え出す頃から、ロープや鎖を頼らなければ降りられない箇所が現れ、慎重に行動した。下山で荷が軽くなっているので助かる。

降るのがいやになった頃、林道に無事に降りられた。

平坦な林道を暫く歩くと、硫黄の匂いに迎えられ、祖母谷温泉が近い事を知らされる。

10時30分 祖母谷温泉着、避難小屋から5時間40分の下降であった。

身体の汚れ落としと衣服の洗濯、及び、体力回復の為、予備日を使う事として、祖母谷で一泊する事にした。夜は、特製ダイナーと岩魚の骨酒を堪能した。

8月15日(木曜日)

2日間の予備日を含めて、今日が最終日。

樺平の始発列車に乗り、帰京の途に就いた。

以上